



昭和12年の八橋油田。広い田園地帯に林立する油井は壮観。前年には全国産油の70%以上に達し「石油王国秋田」の名を高めました



雄物川放水路は、大正6年に着工し、22年の工事を経て昭和13年に通水しました。雄物川をまっすぐ海へ通す2キロあまりの放水路工事は、たび重なる水害の解消や秋田港の港湾整備の基盤を造るのが大きな目的でした。写真は昭和13年4月27日の通水爆破の瞬間



千秋公園のお堀でスケートを楽しむ姿も(昭和31年)



昭和20年8月14日、終戦前夜の土崎空襲。目標となった日石製油所は全滅、死傷者多数。日本最後の被爆地となりました



官公庁団地として整備が進む山王地区。県庁は完成し、市役所は建設中(昭和38年ごろ)



昭和16年4月、土崎港町や新屋町などとの大合併を記念した大秋田市建設祝賀会

つづく

1960 (昭和35)	1959 (昭和34)	1958 (昭和33)	1955 (昭和30)	1954 (昭和29)	1953 (昭和28)	1951 (昭和26)	1947 (昭和22)	1945 (昭和20)	1941 (昭和16)	1938 (昭和13)	1936 (昭和11)	1935 (昭和10)	1934 (昭和9)	1933 (昭和8)	
市の人口20万人突破	山王に県庁新庁舎が完成	秋田市美術館が千秋公園に開館	秋田市美術館が千秋公園に開館	金足村を秋田市に編入	初初の市総合都市計画策定、山王地区に官公庁団地建設へ	南秋田郡旭川村を秋田市に編入	秋田大橋完成(雄物川に初めて永久橋架かる)	八橋油田が大噴油	土崎港町でガス事業開始	産油量日本一に。石油王国秋田の名が全国に広まる	雄物川改修工事の爆破通水式。22年間にわたる雄物川放水路掘削の大工事が完成	南秋田郡土崎港町・寺内町・広山田村、河辺郡新屋町を秋田市に編入	米軍機が土崎を爆撃	市人口10万人突破	地方自治法に基づく初の市議会開会
						「広報あきた」創刊	秋田市文化章を制定	建都三百五十年祭開催	市立秋田病院が開院	秋田市周辺の12か村を編入。人口も18万人を超え、仙台に次ぐ東北第2の都市に	初の市総合都市計画策定、山王地区に官公庁団地建設へ	金足村を秋田市に編入	秋田市美術館が千秋公園に開館	山王に県庁新庁舎が完成	市の人口20万人突破